

モニタ内には、EDID (Extended Display Identification Data) という、モニタの仕様・特性を示すパラメータが格納されています。モニタを駆動するシステム（コンピュータ）は、モニタを最適な状態で使用できるようにするため、この EDID を読み取りモニタを駆動する方式を決定しています。本モニタは非常に多機能なモニタですのでその仕様全てを記述しようとした場合、標準の EDID では容量が足りませんが、OSD (On Screen Display) メニューで EDID の内容を変更することでさまざまなシステムに対応できるようになります。

通常は EDID を変更する必要はありません。モニタを駆動するビデオ・グラフィクスカードを交換するときだけ変更してください。

注：操作を誤るか、正しくない設定値を用いると画面に何も表示されなくなることがあります。

適用モデル:

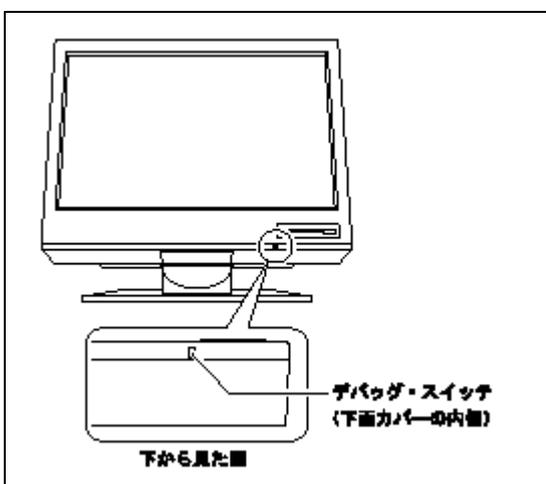
次のバージョンを持つ全てのモデルで設定値の変更が可能です。

DDC CPU	バージョン 3.2 以上
OSD CPU	バージョン 5.0 以上
USB CPU	バージョン 4.0 以上
FPGA LOGIC	バージョン 34 以上

バージョンチェックの方法は、2 ページをご覧ください。上記を満たさないモニタで EDID 設定値を変更する必要がある場合は、<http://www.idtech.co.jp> を参照してください。

ファームウェアのバージョン確認と設定値の変更

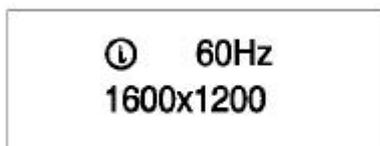
1. モニタの準備をします。
 - a. モニタと PC をビデオケーブルで接続します。
 - b. モニタおよび PC の電源を入れ、画面が安定するまで数分間待ちます。モニタの電源ランプが緑色に点灯していることを確認します。
- もし、電源ランプが黄色のまま点灯している場合は、棒状のものでデバッグ・スイッチを押してモニタの電源を入れてください。



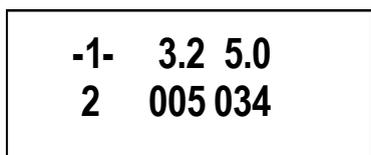
注意:

デバッグ・スイッチを押すときは導電性のものは使用しないでください。モニタ内部の電気回路が破損するおそれがあります。またデバッグ・スイッチを押すと電源ランプは黄色に点滅し、PC からの画面イメージは出力されません。ただしカラー・テストパターンが画面に表示されることがあります。

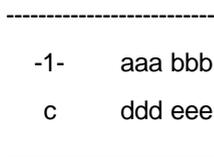
2. OSD 特殊メニューを表示します。
 - a. メニューボタンを押してから、左矢印ボタンか右矢印ボタンを押して(i)インフォメーションメニューを選択し、再びメニューボタンを押します。周波数と解像度が表示されます。



- b. 左矢印ボタンをゆっくり3回押し、続いて右矢印ボタンをゆっくり3回押します。OSD 特殊メニューが表示されます(以下、表示例です)

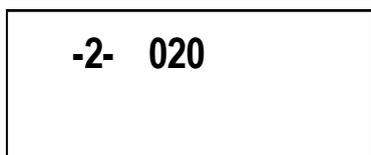


ファームウェアのバージョンは、以下の順序に表示されています。-



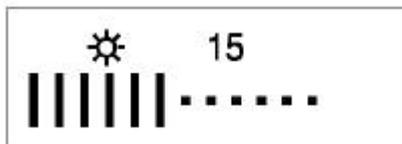
aaa: DDC-CPU. bbb: OSD-CPU. c:(無視してください), ddd: USB-CPU. eee: FPGA-LOGIC.
特殊メニューが表示されない場合、手順2 a. からやり直してください。

3. 現在の設定値を確認します。
 - a. 左矢印ボタンか右矢印ボタンを押して特殊メニューの2ページ目の画面を表示します。
 - b. 5秒経過したあと、現在の設定が表示されます(以下、表示例です)

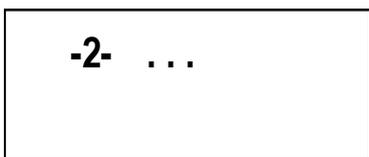


もし番号が000の場合は、何か不明の設定値が入っていることを示します。値が63より大きい場合や"x"が番号についている場合、なにかエラーが起きているため、手順3を再度行ってください。番号の詳細は添付Aの「EDID 設定番号」を参照してください。

4. 設定値を変更します。
- 使用する設定番号を確認します(添付 A の「EDID 設定番号」を参照してください)。
 - 通常の輝度調節メニューで、輝度をその番号に合わせます。この場合輝度の数字は、設定番号を指定するためだけに用いられます。また、いったん特殊メニューに入った後は、輝度の数字は 0 から 63 まで変更できるようになります。



- OSD 特殊メニューの 1 ページ目に入ります。
- 左矢印ボタンか右矢印ボタンを押して 2 ページ目を表示した後、すぐに左矢印と右矢印の両方のボタンを押して以図のように“...”が表示されるまでボタンを押しつづけます(“...”は、モニタが設定値の変更を開始したことを示しています)。



- 5 秒後に変更された設定番号が表示されます。希望の番号がここで表示されるか確認してください。もし異なる場合は、初めから操作をやり直してください。添付 A の「EDID 設定番号」に無い番号は使用できません。また、表示された番号に“x”が付いている場合も、何か問題が起きていることを示しているので初めから操作をやりなおしてください。
- OSD 特殊メニューから抜けて通常動作に戻るため、モニタの電源をいったん切ってください。

重要事項

電源を切った PC にモニタが接続されているか、またはモニタの画面解像度が変化している時、本設定の読みだし、または変更はできません。

本設定番号は、OSD を初期化しても出荷時の状態には戻りません。出荷時の状態に戻すには、次の設定番号を使用してください。

MD22292-B1: 設定番号 20

MD22292-C0/C2: 設定番号 30

MD22292-B0/B2: 設定番号 29

添付 A EDID 設定番号.

DDC-CPUは以下の設定値の検出・書き込みが出来ます。そのほかの設定値は 000(不明)として表示されます。ご使用のオペレーティングシステムとビデオカードで設定番号を確認し、下表から設定番号を選択してください。

注: 対応可能な設定番号はDDC-CPU のバージョンに依存します。最新の番号については、<http://www.idtech.co.jp> を参照して確認してください。

なお、下表に記載されているビデオ・グラフィクスカードでも、そのすべての機能が本製品でサポートされているわけではありません。

表 1 : DDC-CPU バージョン 3.2, 3.3 で設定可能な番号

EDID 設定番号	対応モデル	説明
07	-	予約。使用しないでください。
08	-	予約。使用しないでください。
09	-	予約。使用しないでください。
10	-	予約。使用しないでください。
12	-	予約。使用しないでください。
13	-	予約。使用しないでください。
20	B1	Matrox-G200MMS™本モニタ特別仕様用 (Windows ^(R))
27	-	予約。使用しないでください。
29	B0/B1/B2	ATI-FireGL™、nVIDIA-Quadro4-900XGL™ 用(Windows ^(R)) 解像度 3840x2400 を 20Hz でご使用の場合 (推奨値)
30	C0/C2	ATI-Radeon™8500 用 (Macintosh ^(R))
31	-	予約。使用しないでください。

表 2 : DDC-CPU バージョン 3.4, 3.5 で設定可能な番号

EDID 設定番号	対応モデル	説明
07	-	予約。使用しないでください。
08	-	予約。使用しないでください。
09	-	予約。使用しないでください。
10	-	予約。使用しないでください。
12	-	予約。使用しないでください。
13	-	予約。使用しないでください。
20	B1	Matrox-G200MMS™本モニタ特別仕様用 (Windows ^(R))
27	-	予約。使用しないでください。
29	B0/B1/B2	ATI-FireGL™、nVIDIA-Quadro4-900XGL™ 用(Windows ^(R)) 解像度 3840x2400 を 20Hz でご使用の場合 (推奨値)
30	C0/C2	ATI-Radeon™8500 用 (Macintosh ^(R))
31	-	予約。使用しないでください。
34	B0/B1/B2	nVIDIA-Quadro4-900XGL™ 用(Windows ^(R)) 解像度 3840x2400 を 24Hz でご使用の場合
35	B0/B1/B2	nVIDIA-Quadro4-900XGL™ 用(Windows ^(R)) 解像度 3840x2400 を 25Hz でご使用の場合